



2022年6月ハイパーカレンダーレポート

2022年6月末、私は「[The 16-th International Conference on Complex, Intelligent, and Software Intensive Systems \(CISIS-2022\)](#)」という IEEE 査読付き論文の国際学会に参加することになった。もちろん学会なんていうのは初めてだし英語での発表とか、まったく想像もつかなかった。というのも今まで論文を書いたことも読んだこともなく、文章を書くこと自体そんなに経験があるわけではなく、しかも論文は英語という二重苦であった。正直、執筆や英語での発表練習では「もう無理、限界だ、」と何度も思った。しかし、そんな私のやる気スイッチを押してくれたのが友人たちだ。昔からよく知る友人たちが私に「え！こんなことしよんの？自分やったらできんわ、本当に尊敬するよ！」と異口同音に言う、その言葉が私の大きな励みとなったのだった。そもそも英語に関しては、好きだが、高校生の頃から得意ではなくなっていった。特に会話、発表後の質疑応答では、意味が理解できず、チェアの先生のおかげで何とか笑顔で乗り切った 終了後「英語が理解できて、もっとかっこよく話したかったな」と後悔、しかし、1年間というこの挑戦、今まで味わったことの無い達成感を得ることができたのは何物にも代えがたいことだとしみじみ。

遡って1年前、2021年6月、ハイパー研に就職して2か月たった頃、社会人1年目の課題として、私は唐突にも論文を書くことになったのだ。まずはテーマ決め、私が考えたのは「[ファッションテック](#)」。なぜなら、昔から母の影響でファッションがとても好きで関心が高かったからだが、でも単純に自分が好きなことをテーマにしているだろうか、それって仕事なの？ということから流行りの\*\*\*テックを思い付き、先端技術とファッションの現状と未来を考えてみようかと。特に興味を持ったのが、新型コロナウイルスによる消費者意識の変化とアフターコロナで注目されるテクノロジーについてである。国内外の店舗やECで活用されている事例調査は、ネットや文献、また識者へヒアリングした。ECとリアル店舗に対する消費者感覚は、131名にアンケート調査を行った。アフターコロナのファッションテックとして注目されているバーチャルリアリティの活用は、アプリを実際に使ってもらった実験を行った。概ね仮説に沿った研究結果が得られたのは楽しかった。

今回の論文投稿を踏まえて、今後も継続的に同テーマに取り組みたいと思う。世界200兆円、日本10兆円のマーケットは魅力的であり、ファッションテックの分野は広い。次なる目標は、実際にファッションに関するサービスを作ったり使ったりという試行錯誤に挑戦してみたい。ちなみに、2022年3月、[おおいた AI テクノロジーセンター](#)主催の[ビジネスコンテスト](#)で、学生さんたちとのグループで発表したファッションテック関連サービスの実現についても挑戦していきたい。そんな「理論と実践」の研究開発、そして身近なファッションテック・コミュニティの仲よし開発が、理想的なんだろうなって感じてるところです。

(文責：坂口萌々子)